

■ 亀田ファミリークリニック館山 (KFCT)

院長 岡田唯男

1. 2017 年度の目標と方針

- (1) ISO9001:2015 のバージョンアップに向けて、認証取得を目指す。
- (2) 個人個人がゆとりを生み出せる能力、ノウハウ、資金力、仕事環境の確保。ゆとりとは新たなことへの挑戦、新たなアイデアの想像、他業種、他部所や他施設など既存の枠組みを超えた支援。
- (3) 他職種の連携を推進する（チーム医療のさらなる推進。特に外来患者に対して。）
- (4) 慢性疾患患者へのサポート体制の強化（ピアサポート、患者自身のセルフケア能力の向上、定期的に実施すべき医療のもれをなくす。）
- (5) 患者を待つのではなく、地域へ出る。住みよい地域づくりを共に担う（地域の人／利用者と協働して、地域の問題を解決する視点を持つ）
- (6) 診療領域の維持、拡大（スポーツ外来、発達外来、婦人科検診、外国語対応など）
- (7) 家庭医・総合医不足地域への直接、間接的支援強化、南房総地域での家庭医・総合医全体での連携強化
- (8) 医療の質向上（質の測定、見える化）への継続的取り組み
- (9) 医師の継続的な確保
- (10) 災害時対応の徹底、強化
- (11) 研究の継続
- (12) その他

文責：吉澤瑛子

2. 2016 年度評価（総括）

2016 年 6 月に、当院は開設 10 周年を迎えた。開設初年度は飛び込み分娩、車の飛び込みなどハプニングも多く、この 10 年では、新型インフルエンザ、東日本大震災、乳幼児大量結核暴露事件、2 期工事など、いろいろなことがあった。それらを乗り越えた今、医師数は 2 倍弱、職員数は 1.5 倍弱に増えた。フリーアクセスの医療制度の中、延べ 100 万人弱の方が 10 年通ってくださっている。

家庭医・総合医不足地域への支援・連携として、千葉県山武市に位置するさんむ医療センターへ、2016 年 4 月から、当院の修了生であり、産婦人科専門医も取得した水谷医師を派遣。また、後期研修医の継続した派遣も行っている。

年間活動

- 2016 年 7 月 開設 10 周年記念祝宴
- 2016 年 8 月 8 日 館山湾花火大会協賛
- 2016 年 9 月 プライマリ・ケア看護学勉強会発足
- 2016 年 10 月 秋の作品展
- 2017 年 1 月 第 37 回館山若潮マラソン大会駐車場貸与

文責：吉澤瑛子

3. 診療実績

- (1) 外来
 - ・年間外来受診者数 75,317 名（月平均 6,276 名）うち初診患者数 4.6%（新来率 0.6%）
 - ・乳児健診 137 件/年、妊婦健診 延べ 37 件/年、禁煙外来 115 件/年、外来栄養指導 65 件/年

- ・主な検査：血液検査 7,013 件/年、心電図検査 639 件/年、単純 X 線検査 2,130 件/年、超音波検査 776 件/年

① 紹介

- ・他院からの当院への紹介 年間 286 件（うち鉄蕉会内部 65 件）
- ・当院から他院への紹介 年間 1,394 件 紹介率 1.8%。約 98%は当院で完結している。

② 患者様の声

- ・患者さまの声（2016.4～2017.3）計 12 件（満足 0 件、要望 8 件、不満足・苦情 4 件）
- ・2016 年度患者満足度調査結果（2016.10.17～10.22）

対象：外来患者 475 名 方法：アンケート方式で各項目について 5 点満点で評価

	事務 職員 の言 葉遣 いや 態度	待合 室へ の言 葉遣 いや 態度	看護 職員 の言 葉遣 いや 態度	医師 の言 葉遣 いや 態度	医師 の知 識や 技術	医師 の説 明の わか りや すさ	診察 時間 の長 さ	待ち 時間 の長 さ	待ち 時間 への 対応	受診 のし やす さ	総合 的な 満足 度
定期	4.37	4.21	4.47	4.56	4.40	4.54	4.30	3.61	3.76	4.24	4.28
オープン 予約	4.50	4.35	4.59	4.68	4.56	4.65	4.35	4.03	4.12	4.26	4.47
オープン 予 約 外	4.39	4.35	4.61	4.53	4.28	4.38	4.18	3.15	3.70	3.90	4.20
全体	4.38	4.26	4.52	4.59	4.41	4.55	4.29	3.56	3.77	4.20	4.29

③ 2016 年度の主な活動

館山市及び南房総市個別健診・検査結果連絡票 増加プロジェクト

毎年自治体による総合検診が行われているが、その受診率は目標を下回っている。生活習慣病を有し、当院に定期通院中の患者は当院での診察や検査結果をもって自治体に報告すれば検診を受診したとみなされる制度（通称みなし健診）がある。2016 年度は、既に通院している患者に周知を徹底し、2015 年度の 6 件から 106 件と大幅な増加を達成した。

文責：上松東宏

(2) リハビリテーション科領域

リハビリ関連では大きく 3 つの勉強会/カンファレンスを定期開催している。

① 思春期勉強会：

毎月第 2 火曜日の朝、小学校～高校（主に思春期）の児童に関する様々な課題（不登校、自傷行為、発達障害、性教育 etc）を扱う勉強会を行っている。事例相談、レクチャー、情報共有など様々な形式で行っている。テーマは、6 月（小児の躁うつ）、7 月（不登校男児の事例）、8 月（発達障害のある双生児）、9 月（10 代の妊娠）、10 月（思春期保健相談士）、11 月（小児の不登校事例）、12 月（できない事、への対応）、1 月（事例相談）、2 月（臆カンジダ）、3 月（小児の不眠）で行った。養護教諭、スクールカウンセラー、教育委員会職員、セラピスト（OT/ST）、家庭医など平均 10 名前後が参加している。

② 小児リハカンファ :

毎月第3火曜日の夕方、 幼児～小学校の児童に関する様々な課題（主に発達障害）を扱う勉強会を行っている。亀田総合病院小児科の専門医を囲む形で、事例相談が多いが、レクチャー形式の時もある。保健師、養護教諭、保育士、セラピスト（OT/ST）、家庭医など地域の療育に関わる職種が様々に集い、平均は20-30名が参加している。

③ リハビリ勉強会 :

毎月第3火曜日の昼休みにリハビリ部門のセラピストと医局で合同の勉強会を行っている。

テーマは4月（自己紹介）、5月（小児リハについて）、6月（プロジェクトを立ち上げる時の便利なツール）、7月（インソール）、8月（器具の使い方）、9月（ポートフォリオ）、10月（呼吸理学療法）、11月（病院へ行くパンフレット）、12月（Women's health）、1月（休み）、2月（高校のメディカルチェック）、3月（運転研究会）両部署で交互に担当して行った。

文責：氏川智皓

(3) スポーツ医学科領域

平成28年6月より診療体制が変わり、本院からスポーツ医学科部長の大内医師が月1回の半日外来を担当し、家庭医外来からの紹介もしくは継続フォローの患者のみの対応となった。

家庭医外来からの新規の紹介は月5件程度であり年間83件だった。

内訳は肩、膝の疾患が多く、手術適応となった患者もいた。

文責：玉野井徹彦

(4) 産婦人科領域

2006年の開院以来、家庭医および家庭医を目指す後期研修医による妊婦ケアを亀田総合病院産婦人科のサポートのもと実践している。もともと週2回であったが2016年度より週3回（火木土の午前中）に回数を増やし妊婦健診の外来を設けている。2015年度(当院受診が2016年4月1日～2017年3月31日)に妊娠反応陽性で受診した患者は23名であり当院で2回以上継続して妊婦健診を行った患者は17名だった。

また妊婦健診の時間に婦人科の診察も行っており、当院に定期通院している患者さんの様々な相談に乗っている。

2016年度より当院の研修修了し家庭医療専門医・産婦人科専門医の水谷佳敬先生の指導が開始となった。

産後ファミリー外来では、産後2週間、1ヶ月で、新生児と褥婦の診察をしている。家庭医が関わることで、母子同時の受診が可能であり、家族メンバー全員の想いを聞いたり、小児科、婦人科以外の領域の相談に応じることもできている。別途看護の報告を参照されたい。

2013年度から館山市、南房総市、鋸南町、鴨川市の子宮頸癌の施設検診を受託する指定医療機関となり、2016年度は計216例(館山市107例、南房総市85例、鋸南町21例、鴨川市3例)の検診を施行した。

文責 田島明野

(5) 予防接種

・ ワクチン接種数：年間総本数8,303本（月平均692本）

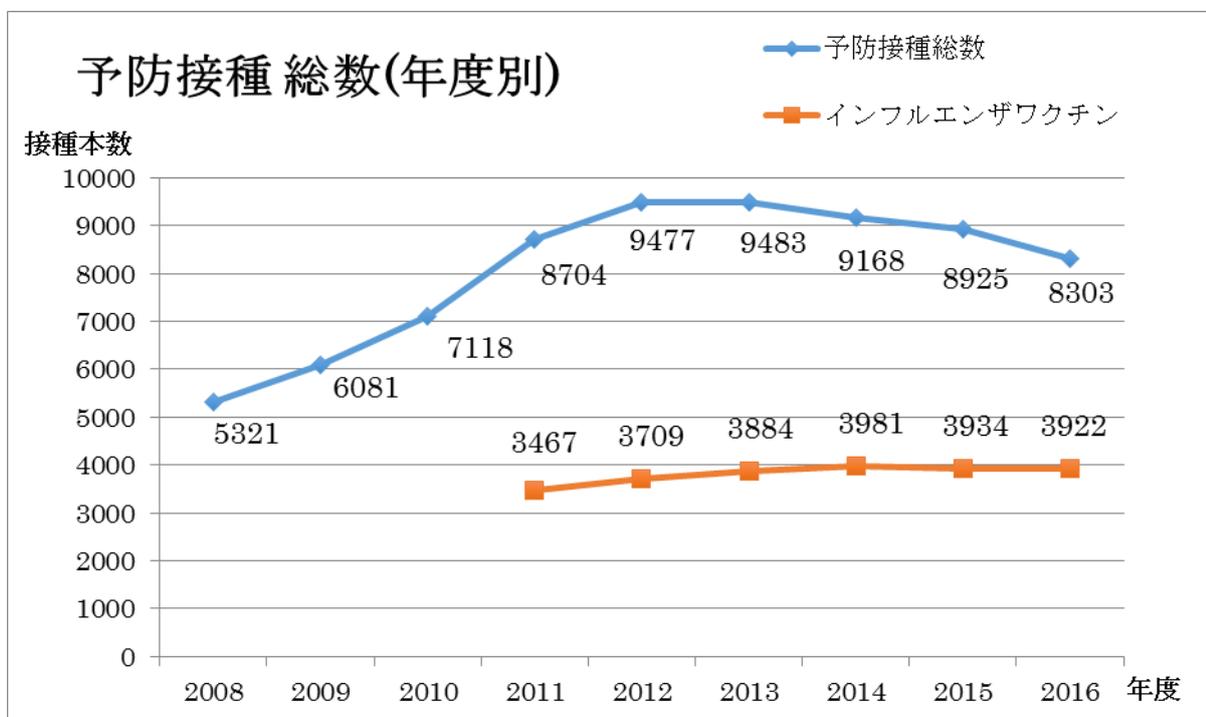
・ 主な内訳（公費/自費ともに含む）：

インフルエンザワクチン3,922本、成人肺炎球菌ワクチン266本、ヒブワクチン541本、小児肺炎球菌ワクチン550本、BCGワクチン143本、MR（麻疹風疹）ワクチン297本、日本脳炎564本、

二種混合(DT)ワクチン 119 本、水痘ワクチン 356 本、ムンプスワクチン 251 本、ロタウイルスワクチン (ロタリックス®) 148 本、A 型肝炎ワクチン 7 本、B 型肝炎ワクチン 507 本、ヒトパピローマウイルスワクチン 2 本など。その他トラベルワクチンとして腸チフス(Typhim Vi®) も取り扱った。

- ・ 接種総本数は約 8,300 本と、経年でやや減少傾向にある。接種本数のうち、インフルエンザワクチンが約 47%を占めた。その他ワクチンの接種本数もほぼ昨年度と同様の割合であった。
- ・ 当院では家庭医としてあらゆる年代・ライフステージの患者様を対象としているため、扱うワクチンの種類も多岐にわたる。特に任意接種 (2017 年 5 月現在) であるムンプスワクチンについては、4 年前からパンフレットなどを用い接種の推進を続けた結果、双方ともに高い接種率が維持されている。
- ・ 2016 年度では未だ実施に至っていないが、当院でパリビズマブ(シナジス®)の注射を実施する体制を整えた。次年度以降にパリビズマブ注射の実施とその本数について報告する予定である。

文責：山下洋充



(6) 在宅

- ・ 当院は常勤指導医 4-5 名 (在宅医療認定専門医 1 名を含む) と、複数人の後期研修医によるグループで在宅診療を行っている強化型在宅療養支援診療所である。がん患者の割合が多く緩和ケアを十分に提供していることから、2016 年度からは診療報酬改定に伴い“在宅緩和ケア充実診療所加算”の算定を開始した (施設基準：過去 1 年間の緊急往診件数 15 件以上、自宅看取り件数 20 件以上、PCA 導入 2 件以上など)。
- ・ 同じ敷地内に、亀田訪問看護ステーション館山、亀田ホームケアサービス館山が併設されており、また、ケアマネジャーも待機していることも影響してか、職種間連携がはかりやすく、06 年度の開設以後、5-7 割と高い自宅看取り率を維持できている。2015 年度は新規導入患者数がここ数年で最も多く、基礎疾患のバリエーションも、非がん疾患の終末期や、神経難病など、明らかに広がっている。

- ・ KMC と毎週水曜に、緩和ケアカンファレンスと称して、緩和ケア科、在宅医療部の医師に、ターミナル期の症状緩和の方法や、鎮痛薬の使い方などの事例相談を行っている。ARMEC とは、毎週火曜に ARMEC カンファレンスと称して、総合診療科の医師と、在宅から入院になった事例のその後の経過や、退院計画の相談、新規で訪問診療導入を検討している方について情報共有を行なっている。
- ・ 急性期病院退院後の訪問診療導入が多い影響で、重症度や複雑性の高い症例が多い傾向があり、要介護 4、5 の割合が 57.4%と高くなっている（2016 年 10 月時点で、要介護 5:19 件、4:12 件、3:2 件、2:7 件、1:4 件、要支援 1,2:2 件、非該当 8 件）。
- ・ 世帯状況別にみると、2016 年 10 月時点で、単身世帯が 6 件、同居世帯が 45 件、施設入所者が 5 件だった。

<新規導入>

- ・ 2016 年度の訪問診療新規導入患者は計 53 件、うち、癌は 33 件（62.3%）であった（新規導入患者数：2013 年度 46 件、2014 年度 59 件、2015 年度 62 件）。
- ・ 下記、紹介元となる KMC（亀田総合病院）に加え、ARMEC（安房地域医療センター）と遠隔会議の実施や連携に努めた結果、当院在宅の認知度が高まったことも大きく関与していると考えられる。

<紹介元>

- ・ 紹介元としては、KMC からが 35.8%（19 件）、ARMEC から 34.0%（18 件）、KFCT から 28.3%（15 件）、その他 1 件であった。KMC、ARMEC からの紹介が毎年ほぼ 6 割以上を占めており、高い自宅看取り率を維持しながらも、患者の状態や希望に応じ、随時レスパイト含めた入院受け入れなどの連携がスムーズなのが、当院在宅の強みともいえる。
- ・ 自施設の外来から訪問診療導入になる割合が、昨年度の 17.7%から 28.3%に増えており、開設 10 周年を迎えて外来通院患者も高齢化したことに加え、在宅導入基準、時期を適切に判断できるようになっていると考えられる。

<看取り>

- ・ 契約終了（死亡、入院、転院を含む）は計 57 件であり、そのうち、死亡による契約終了は 47 件であった。契約中の患者で在宅看取りを行ったのは 33 件（57.9%）、うち癌患者における在宅看取りは 23 件/29 件（79.3%）であった。

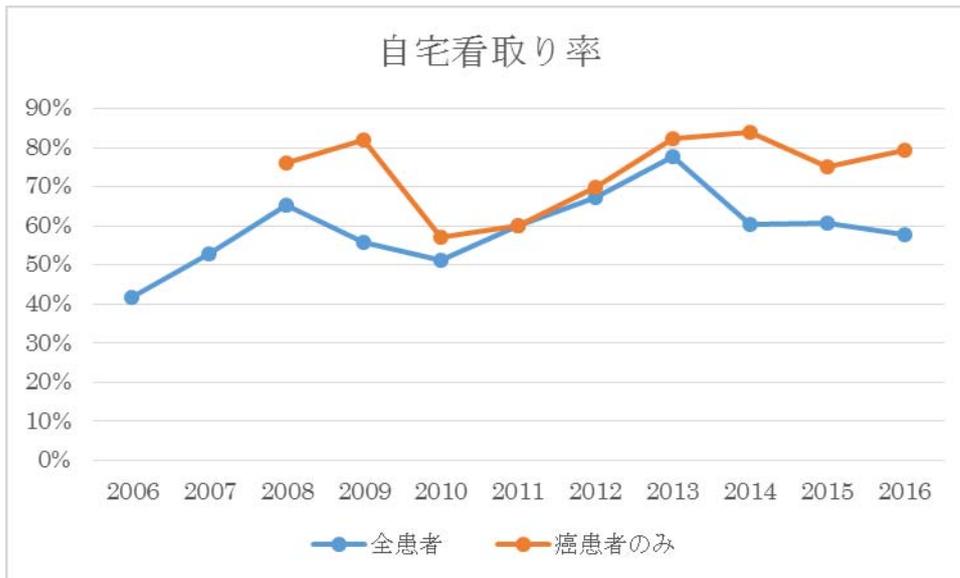
※ 在宅看取り率＝在宅看取り件数÷契約中に死亡した全患者

※ 癌患者の在宅看取り率(2006-2012)＝在宅看取りした癌患者÷契約終了した癌患者

※ 癌患者の在宅看取り率(2013-2016)＝在宅*看取りした癌患者÷契約中の死亡した全癌患者

*：療養施設を含む

文責：吉澤瑛子



(7) 透析

2017年5月末現在、透析室はベッド数23床、患者数42人、週9クール（月・水・金：午前午後、火・木・土：午前）で運営されている。のべ透析回数は2016年度6,815回（2015年度6,977回、2014年度6,537回、2013年度6,936回、2012年度7,151回、2010年度7,444回、2008年5,769回、2007年度2,931回）であった。

これまではHDのみであったがオンラインHDFも可能な機器を導入し、2016年8月よりオンラインHDFでまず1クール1台から稼働し始めている。5台分のオンラインHDFを行える機器を備え、現在1クール2-3台稼働させている状況である。

定期採血を行い透析に関する検査項目を月2回確認している。

また亀田総合病院から週1回腎臓内科専門医が来院するため具体的な相談を行うと共に、勉強会を定期的に行い、透析に関わる医師でガイドラインの確認やCKD-MBDのコントロールなどを個別に検討を行っている。

透析の質評価の項目以外に、癌検診施行率、予防接種施行率など健康維持増進の取り組みや、糖尿病患者の眼科受診率を上げるため、2014年より看護部と協力したシステム構築を行っている。

文責 田島明野

4. 医師会受託事業

		2014年度	2015年度	2016年度
館山市	4ヶ月乳児健康診査	4	2	0
	1才6ヶ月乳児健康診査	3	4	1
	3歳児健康診査	4	5	10
	総合検診（特定健診）	1	3	3
南房総市	4ヶ月乳児健康診査		0	0
	1才6ヶ月乳児健康診査		3	3
	3歳児健康診査		1	1
	総合検診（特定健診）	7	7	6

文責：岩間秀幸 粕谷奈美

5. 教育、研修部門(2017年5月時点)

1) 修了生

2017年3月に15期生の4名(高橋、玉野井、氏川、山下)が3年間の後期研修プログラムを修了した。家庭医診療科の研修修了生は合計15期41名となった。

2) シニアレジデント、フェロー

第17期生2名を採用し、2016年度は合計9名のレジデントが在籍した。レジデント修了者3名が、フェローとして在籍した。

3) ジュニアレジデント

当院は亀田総合病院地域ジェネラリストプログラムの必修研修の場となっている。1年次4名、2年次4名の合計8名が当院で研修を行い、1ヶ月ずつのローテーションと、月2回半日の外来研修(ハーフデイバック)を継続して行った。また亀田総合病院内科系プログラムの初期研修医1名のローテーション研修を、1ヶ月受け入れた。

4) スタッフ

FDフェローを終えた張がスタッフとして着任した。

5) 見学、研修生

後期研修医を安房地域医療センター 地域ホスピタリストプログラムから1名(1ヶ月)、千葉大学医学部附属病院総合診療科後期研修プログラム(家庭医療コース)から1名(6ヶ月)、東海大学家庭医療後期研修プログラムから1名(6ヶ月)受け入れた。

外部からの見学、視察は以下の通り：

	2014年度	2015年度	2016年度
医師	3	2	7
後期研修医	3	9	5
初期研修医	7	10	6
学生	29	35	38
学生(2週間以上の臨床実習)	6	4	1

文責：岩間秀幸 粕谷奈美

6. 研究部門

学術関係の記録を参照のこと。

7. スタッフ

現在のメンバーの概要を以下に示す。経歴、資格、役職などは当院のホームページを参照されたい。

メンバーは計21名+非常勤8名(2017年6月現在)である。

■ 部長(スタッフ、指導医)

岡田 唯男(院長、プログラムディレクター兼任)

■ スタッフ

医長 吉澤瑛子(11期生)在宅部門統括

医長 上松東宏(フェロー修了)外来部門統括

岩間秀幸(12期生)教育部門統括

田島明野(14期生)マタニティ、透析部門統括

伊藤彰洋(ファミリーメディスン株式会社、非常勤)

松岡角英（ふさのくに家庭医療学センター、非常勤）
川島かおる（5期性）非常勤
吉田賢史（8期性）西嶋医院、非常勤
織田暁寿（9期性）ホームクリニック柏、非常勤
菅長麗依（幕張クリニック、非常勤）
郭友輝（亀田京橋クリニック、非常勤）
原澤慶太郎（12期性）亀田総合病院 在宅医療部、非常勤
塩田正喜（河北総合病院、非常勤）
高橋亮太（15期性）非常勤
三戸勉（千葉大学医学部附属病院、非常勤）

■フェロー（3名）

玉野井徹彦（15期生）スポーツ部門統括
氏川智皓（15期生）リハビリ部門統括
山下洋充（15期生）予防接種部門統括

■後期専門研修医（3年間、10名）

16期生 鶴飼万実子、久保田希、岡田悠、年森慎一
17期生 坂井雄貴、宮本侑達
18期生 金久保祐介、河田祥吾、常石大輝、伊豆倉遙

■非常勤

小原まみ子（腎臓高血圧内科 コンサルタント）
市河茂樹（小児科 コンサルタント）
大内洋（スポーツ医学科 コンサルタント）

■初期研修（8名）

（地域ジェネラリストコース6期生）
高岡沙知、潮雄介、森本美登里、加藤礼乃
（地域ジェネラリストコース7期生）
鈴木崇浩、山木良輔、西明博、小川尋海

■出向スタッフ

本山哲也（7期生） 北京 21世紀病院
水谷佳敬（9期生） さんむ医療センター
勝山陽太 さんむ医療センター
濱井彩乃（11期生） 安房地域医療センター
北本晋一（13期生） 安房地域医療センター
金城謙太郎 森の里病院

文責：岩間秀幸 粕谷奈美

8. 教育、勉強会関係など

当院は教育プログラムを有し、研修医が多く、他施設からの研修生も多く受け入れている。これにより院内は活性化し、常にお互い学び合う文化の醸成と患者ケアの質向上に邁進している。

<後期研修プログラム>

「亀田家庭医後期専門研修プログラム」は、2013年度より正式に4年プログラムとなった。日本プラ

イマリ・ケア連合学会の後期研修プログラムとして登録し、運用しており、毎年3-4名の後期研修医を採用している。プログラム要件として、内科病棟、小児科、救急などの経験が要求されており、亀田総合病院・安房地域医療センターなどの各科の協力を得て運営を行っている。他、腎臓内科、産婦人科、在宅医療、リハビリテーション、緩和ケア、スポーツ医学などの各科を必須研修とし、KFCTでの外来・訪問診療・透析の業務に携わっている。

<フェロシッププログラム>

- ・KFCT FD (faculty development) フェロシッププログラム(1-2年間)
- ・General Practitioner with Special Interest(以下 GPwSI) fellowship(1-2年間)

の2つのフェロシッププログラムを提供しており、次年度からは Research fellowship program (リサーチフェロ)を開始する予定で、募集を行なっている。

2016年度は河南・鈴木・田島がFDプログラムに参加した。家庭医療・Teaching improvement・Academic and Career development・Leadership and management・Researchの5つの要素について月1回 small discussion 形式で実践的に学習した。研修修了判定は口頭試問および On the job での評価で行い、全員が合格し修了した。学習者によるカリキュラム評価を行いプログラムの満足度は5点満点で平均4.52点、自己評価での到達度は3.17点であった。到達度の低かった内容はカリキュラム開発・評価・ビデオフィードバックなどで次年度に向けて改善点をあげた。

<初期研修医教育>

地域ジェネラリストプログラムの初期研修医を、1ヶ月×2回のローテーション研修、月2回半日の外来研修で受け入れている。他、骨太プログラムの研修医のローテーション研修の受け入れも行っている。

<勉強会・カンファレンス>

院内医師向けの勉強会としては、「モーカン(疾患別の勉強会)」「レアケースカンファレンス」「患者共有カンファレンス」「マタニティカンファレンス」「ポートフォリオ勉強会」などがある。

院内多職種での勉強会として、「透析カンファレンス」「在宅カンファレンス(デスカンファ・シェアカンファ)」「リハビリカンファレンス」「バースレビュー」を行っており、各種業務に関連し活発な議論を行っている。

院外も含む多施設・多職種の勉強会では、「小児リハビリカンファレンス(特別支援学校やマザーズホームの職員、養護教諭が集まり、発達障害児について情報共有を行う)」「思春期勉強会(養護教諭が集まり思春期の生徒について扱う)」を主催している。

<レジデントデイ>

他科ローテーションで院内レクチャーやポートフォリオ勉強会に参加できないというレジデントの声を反映させ、2015年より年3回土曜午後の時間に全専攻医が集まって学んでいる。岡田院長のレクチャー、外来ビデオレビュー、拡大ポートフォリオ等を行った。

ディスカッションを中心に家庭医療学を深く学び(Deep learning)、終了後は懇親会を行って日常の悩みや課題を学年を超えてサポートしている。

<メンター制度>

2015年度より導入していたメンター制度を2016年5月より本格的に開始した。専攻医1人1人に上級医が年間を通してメンターとしてつく通年メンターを設定した。メンターは月1回以上、学会の研修手帳を用いて振り返りを行いながら学習目標や到達度の確認を共に行い、また日常生活で困っていることの相談があった。定期的に専攻医から指導医へのフィードバック体制を設け双方向性の指導と

している。

<多職種の教育>

医学生、看護学生、リハビリテーション療法士の学生など、多くの研修者が来院する。この際、各部署内での教育に加え、他の職種の職場でも研修し、学生時代から多職種連携を学ぶ機会を提供している。

2016年より毎週金曜日に家庭医療看護師勉強会を開始した。外来の事前相談や看護介入などの新たな医師・看護師の協働プロジェクトが生まれた。

文責：岩間秀幸 粕谷奈美

看護室

(準備中)

訪問看護ステーション館山

1. 2017年度目標

1) 財務の視点

利用者紹介元との連絡・報告を徹底し、毎月2件以上の新規導入を目指す。

2) 顧客の視点

リハビリスタッフとの共通利用者の情報共有を行い、多面的なケア介入に努める。

3) 内部プロセスの視点

新人スタッフも来たため、スタッフ同士が理解協力し易い職場風土、体制を構築する。

4) 学習と成長の視点

スタッフ各自の成功事例、失敗事例からの学びを共有できる場を設定し、アセスメント力の強化、ケア方法の適正化を図る。

2. 2016年度事業評価

1) 財務の視点

介護保険での利用者への30分以上60分未満の単位請求を介護保険内60%を目指した。結果的には約53%と目標を達成することは叶わなかったが、60分以上90分未満が約12%と延びた。

2) 顧客の視点

臨時訪問の振り返り、分析をし看護計画の見直しを図った。特にカテーテルトラブルと排泄トラブルでの臨時対応が多かったが、計画の見直し、本人・家族への教育的介入の強化にて臨時訪問は大幅に削減することができた。具体的には前年度比-50%程度。

3) 内部プロセスの視点

完全担当制から代替可能な訪問対応を目指し、情報の共有に努めた。結果的には登録利用者の半分以上でフレキシブルな訪問が対応できるようになった。ケアの標準化など、更なる質の向上を今後目指していく。

4) 学習と成長の視点

仕事へのモチベーションアップを図る為に、毎朝の月間目標の唱和や頭の体操の時間を作り、スタッフ間のコミュニケーション向上を図った。

3、スタッフ構成

所長：鈴木健一

他、看護師：4名

作業療法士：2名（兼務）

理学療法士：2名（兼務）

4、業務内容

1) 予防看護・地域看護・終末期看護・緩和ケア

家族看護・リハビリテーション等患者さまの想いに添い、期待以上のサービスを提供するために主治医や、その他関連職種との密な連携のもとに看護実践をしている。

2) 24時間緊急時対応体制

患者さまやそのご家族からの連絡（状態の変化や療養上の不安等）に、主治医と連携を図りながら対応できる体制をとっている。

5、事業実績

1) 依頼経路

2016年度、新規導入に至ったのは81名であった。

新規利用者の内、リハビリのみの依頼は24名であった。

内訳として亀田総合病院から22名（約27%）、安房地域医療センターから32名（約40%）を占め、併設する亀田ファミリークリニック館山から19名（約23%）、亀田リハビリテーション病院から3名（4%）それ以外から5名（約6%）であった。

それ以外とは、地域の開業医などからの依頼であった。

2) 新規依頼患者の内訳

新規登録者の内リハビリのみの導入が24名、訪問看護導入は57名であった。57名の内30名（約53%）が担癌患者である。癌以外の疾患としては、脳血管系2名、神経難病1名、循環器疾患6名、呼吸器疾患4名、小児2名、認知症等虚弱高齢者等9名、その他3名となっている。

3) 転帰

利用患者さまの転帰の多くが死による終結である。2016年度は90名が訪問看護（リハビリ含む）の利用を終了した。その内の54名（60%）が死による終結であった。亡くなった方の内39名（約72%）は自宅で最期を迎えている。亡くなった方の内、主病名が癌であった方は28名であり、自宅看取りをした方は22名（約79%）であった。

医師・その他関連職種との連携が機能し、自宅での看取りを実現可能としている。

4) 訪問件数

2015年度年間延べ訪問件数は4426件であった。そのうちの1655件（約37%）はリハビリのみの訪問である。

介護保険と医療保険の割合では、医療保険が約37%を占め、医療依存度の高さがうかがえる。

5) 緊急時連絡対応件数

訪問看護師が交代で拘束対応しており、電話連絡を受けている。その内容に応じて医師と連携を図り対応している。

2016年度に臨時訪問した回数は221件であった。主な内訳は排泄関係57件（約26%）、ターミナル関係：50件（約23%）、カテーテルトラブル関係24件（約11%）、発熱22件（約10%）、その他68件（約30%）であった。

その他の内訳としては、転倒・転落、急な体調変化（意識状態の変調や、急な疼痛出現など）であった。

6、カンファレンス・連携

1) モーニングカンファレンス 毎朝

在宅担当医、訪問看護師、ケアマネージャー、リハビリ等が参加し、前日の訪問内容を報告し、情報の共有を図っている。

2) イブニングカンファレンス 毎夕

当日の訪問（診療・看護）についてディスカッションを実施し、方針の決定等を行う。

3) 在宅全体カンファレンス

関係職種（医師、看護師、リハビリ、ケアマネージャー等）が集まり実施。

・シェアカンファレンス 月1回

困難事例への対応や、方針設定などを実施。

・デスカンファレンス 月1回

亡くなった患者さまの振り返りを実施。その後グリーフカードを作成し送付している。

4) 在宅改善カンファレンス 不定期

既存の在宅業務内容を評価、修正し業務改善を図っている。

5) 他院との連携

地域の開業医等から患者さまの紹介、導入の相談が適宜発生しており、各施設のソーシャルワーカーや担当医師、看護師との連携を図り対応している。

文責：鈴木健一

リハビリテーション室

（準備中）

事務室

1. 2017年度の目標及び方針

1) 財務の視点

設備関係費や経費の予算管理を実施しながら、予算利益の達成を目指していく。

また、節約・節電を含めた経費節減運動を図っていく。

2) 顧客の視点

事務室員が当クリニック内各委員会（医療安全管理・感染管理・防災・広報・CQI・催事レク・地域活動）の委員として患者さまへのサービスの向上及び地域住民への宣伝を図り、診療収入の増加に繋げる。

3) 内部プロセスの視点

各担当者は担当業務に対して責任を持ち、ISO取得に向けた準備をする。

4) 学習と成長の視点

千葉県民間病院協会主催の医事業務研究会へ毎月参加するとともに、当クリニック内各委員会主催への研修へ積極的に参加する。

2. 2016年度評価

1) 財務の視点

診療報酬改定に伴う施設基準の算定の見直しを図り、診療報酬収入の体制を整えた。

2) 顧客の視点

すべての事務室員が当クリニック内部委員会に所属しており、特に開設 10 周年記念事業を通じて患者さまへの宣伝活動に繋げた。

3) 内部プロセスの視点

各担当者は担当業務に対して責任を持ち、他の所属部署との連携強化に努めた。

4) 学習と成長の視点

千葉県民間病院協会主催の医事業務研究会へ毎月参加するとともに、当クリニック内各委員会主催の研修会へ参加した。

3. 業務紹介及びスタッフ数

1) 業務紹介	2) スタッフ数 計 16 名
①受付・会計業務	①医療事務業務 11 名
②レセプト請求業務	②総務事務業務 1 名
③予約受付業務	③財務事務業務 1 名
④クリニック統計業務	④診療室事務業務 1 名
⑤総務業務	⑤運転・営繕業務 2 名
⑥財務業務	

文責：佐藤直人

歯科センター

2017 年度の目標および方針

亀田メディカルセンターの基本理念・方針に基づいて、安定した経営基盤を確立するよう努力し、質の高い医療を地域に提供するとともに、患者さまに高い満足をしていただけるよう、スタッフ一丸となって努力していきたいと考えます。

2016 年度の評価

順調に患者数も伸びており、安定していると考えます。

スタッフ構成

歯科医師数：常勤 3 名 非常勤 5 名

歯科衛生士：8 名

歯科助手：5 名

歯科技工士：2 名

診療内容

ユニット・チェア数 8 台、カウンセリング室、小手術用オペ室完備。

一般歯科：虫歯や歯周病の治療、義歯など補綴物の作成

小児歯科：子供の歯科治療

矯正歯科：歯並びの治療

口腔外科：外来処置が可能な外傷、炎症、腫瘍。顎関節症、鎮静下での歯科治療。デンタルインプラントなど

審美歯科：ホワイトニング、ラミネートベニア、オールセラミック

診療実績：再生療法 5 症例、インプラント 8 症例、埋入総数は 14 本であった。

教育

ドクターカンファレンス

歯科センターとして歯科医師個人としての診断や治療計画の立案および治療手技の向上を目的として月2回火曜日に症例検討会を行い、積極的に意見交換や確認を行っている。

スタッフミーティング

スタッフ一同働きやすい環境作りと患者さまの満足度を上げることを目的として月2回火曜日に歯科衛生士、助手および技工士にて日々の問題点を抽出し、検討している。

スタッフ一同各自学会、勉強会、研修会に積極的に参加している。

文責：小澤重人

委員会活動

2011年度からクリニック内の部署を超えた横断的連携を目的とし、月1回1時間の委員会活動が開始された。

各委員会の名称と活動内容、実績は以下のとおりである。

1. 医療安全委員会

委員長：小野田紀生 副委員長：田中真紀子 委員メンバー10名

開催回数 11回（月1回の開催 1回は防災訓練のため休み）

(1) 活動内容

①医療安全巡視 7月実施（5S、救急カート、AEDの設置場所、針刺しのフローなど確認）

②医療安全研修会開催

ア 第1回 DVD上映「チームワークをよくするために必要な考え方」

・12月7日 参加者41名

・12月13日 参加者38名

イ 第2回 「ノンテクニカルスキル RCA分析」 氏川先生による講演

・2月7日 参加者51名

・2月15日 参加者28名

③不参加者はDVD個別対応

(2) その他

毎月、各部署のファントルくん報告、分析、改善案の検討

転倒防止アセスメント作成 転倒シール（ゴールド）をIDカードに貼り付けることで4月より運用開始。黄色ファイルの運用も検討中

(3) 2017年度の課題

転倒防止シール、ファイルの運用状況のチェック

本院との医療安全事項連絡、連携などどのように対応すべきか検討へ

2. 感染管理委員会

(1) 活動内容

①手指衛生モニタリング

年2回実施。本年度は新しい試みとして自部署ではなく他部署のモニタリングも実施できた。

②環境ラウンド

年1回実施

③感染管理研修会準備と実施

感染管理研修会実績*

ア 第1回感染管理研修会

亀田総合病院地域感染症疫学・予防センターより DVD をお借りし、DVD 鑑賞を実施

日時：2016年6月7日（火）・2016年6月15日（水）18:00～19:00

テーマ：チームステップを取り入れた感染対策 病棟 ICT の活動について

イ 第2回感染管理研修会

日時：2016年11月8日（火）・2016年11月16日（水）18:00～19:00

テーマ：手指衛生について

ウ 第3回感染管理研修会

亀田総合病院地域感染症疫学・予防センターより DVD をお借りし、DVD 鑑賞を実施

日時：2017年1月17日（火）・2017年1月23日（月）18:00～19:00

テーマ：ジカウイルス感染症について

(2) 感染管理マニュアルの読み合わせ

3 防災委員会

(1) 委員構成

委員長 佐藤直人

副委員長 山口和子

委員 勝山陽太（張 耀明）、松坂喜美代、渡邊務、荒牧奈緒美、
河野真由美、佐久間華奈、高川幸恵 計9名

(2) 委員会開催回数 10回（毎月第4木曜日16時より）

(3) 活動実績

- ①自衛消防隊行動指針の見直し
- ②消防訓練の実施（6月・12月）
- ③消防用設備等自主点検の実施（9月）
- ④防災時持ち出し袋の内容確認
- ⑤地震・津波時フローチャート（案）の作成
- ⑥災害警報発令基本方針（仮運用）の作成
- ⑦津波避難訓練の実施（防災委員のみ）

(4) 申送事項

- ①災害警報発令基本方針（仮運用）の完成
- ②地震・津波時フローチャート（案）の完成
- ③津波避難訓練の実施の検討
- ④防災委員の教育連絡係・消火係・避難誘導係等について、防災委員各自がある程度精通できるように訓練する。
 - ア 火災警報システム
 - イ 非常放送設備
 - ウ トランシーバー
 - エ 防火シャッタースイッチ
 - オ 屋内消火栓の位置

カ その他

(5) 緊急連絡網の訓練実施

4. 広報委員会

(1) 4月 院内報発行

退職情報、出産報告、若潮マラソン、My favorite things(事務室畔上)、クイズ

(2) 5月 院外報発行

入職情報、岡田院長の部屋、医局(新入医師を迎えて)、歯科(食事の時間)

看護(H28年度予防接種について)、リハ(コグニサイズと脳トレ)、診療案内

(3) 6月 院内報発行

入職・産休情報

(4) 7月 休刊

(5) 8月 院外報発行

亀田ファミリークリニック開設10周年目を迎えて(岡田院長、鈴木師長、鈴木訪問看護所長、小澤歯科センター長、佐藤事務室係長、大谷リハビリ室長)

医局(第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会)、歯科(電動歯ブラシ)、看護(熱中症)

リハ(誤嚥性肺炎の予防)、診療案内

(6) 9月 院内報発行

退職・異動情報、出産報告、KFCT10周年記念式典

(7) 10月 院外報発行

退職・異動・入職情報、健康教室のお知らせ、岡田院長の部屋

医局(全国の医学生、若手医師へ向け勉強会を開催)、看護(B型肝炎ワクチン)

歯科(歯ブラシ)、リハ(自助具)、診療案内

(8) 11月 院内報発行

入職者情報、My favorite things(歯科小野田)

(9) 12月 院外報発行

入職者情報、第8回亀田ファミリークリニック館山秋の作品展

岡田院長の部屋、医局(世界で活躍する当院の研修医たち)、歯科(歯間ブラシ)

看護(インフルエンザ)、リハ(作業療法士の仕事)、診療案内

2017年

(10) 1月 院外報発行

岡田院長の部屋(新年の挨拶)、診療案内

(11) 2月 院内報発行

退職・異動情報、結婚・出産報告、クリスマスコンサート、防災訓練

忘年会、My favorite things(リハ福原)

(12) 3月 院外報発行

退職・異動情報、岡田院長の部屋、医局(若潮マラソン)、歯科(歯ブラシ)

看護(子育て支援と母乳育児支援)、リハ(運動をする強度の目安)、診療案内

(13) 4月 院内報発行

退職・異動・入職情報、My favorite things(医局坂井)

5. CQI 委員会

(準備中)

6. 催事委員会

(1) 催事委員会委員メンバー

高橋亮太、宮本侑達、山崎加奈子、長谷川和江、小磯なを美、大友可奈、鈴木路子、吉田真(会計)、藤井光代(副)、浅井史織、忍足めぐみ、富川志乃布(長)

(2) 1年間の催事委員会会議

- 第1回 4月28日(木) 16時～17時
- 第2回 5月26日(木) 16時～17時
- 第3回 7月27日(木) 16時～17時
- 第4回 8月25日(木) 16時～17時
- 第5回 9月29日(木) 16時～17時
- 第6回 10月27日(木) 16時～17時
- 第7回 11月24日(木) 16時～17時
- 第8回 1月26日(木) 16時～17時
- 第9回 2月23日(木) 16時～17時
- 第10回 3月23日(木) 16時～17時

(3) イベント開催

- 新人歓迎会 4月16日 はなの舞
- ボーリング大会 10月12日 ヤングボール
- 展示会 10月13日～11月2日 パブリックコリドー
- 忘年会 12月10日 芳喜楼

7. 地域活動委員会

(1) 健康教室の開催 年2回

- ①11月10日 低温やけど・けがの対応
- ②2月23日 花粉症

(2) 待合室にある健康教室バックナンバーファイルの見直し

(3) 委員会規定の作成終了 委員会ファイルに保管

(4) パブリックコリドーに掲示する、医師顔写真の掲示基準を再確認

(5) 亀田ファミリークリニック館山リーフレット考案中

8. 10周年記念誌発行委員会

10周年記念誌発行委員会／10周年イベント実行委員会(有志)

所属：吉澤 玉野井 久保田 鈴木 加藤 仲山 永久保 石井 小川

亀田ファミリークリニック館山(以下、KFCT)は2006年6月に開院し、2016年度に10周年を迎えた。節目にあたり、これまでKFCTを支えてくれた職員への労いと、これからの10年について考える場を作ることになった。10年分の軌跡をまとめるため、記念誌発行委員会と命名し、開設十周年記念祝宴の運営も兼任して行なった。

・開設十周年記念祝宴

日時：平成28年7月9日(土)

研修会：15:00～17:00

懇親会：18:00～21:00

場所：南房総富浦ロイヤルホテル

対象者は、KFCTの全職種の現職者だけでなく、離職、退職者も含めて声をかけ、当日は、研修会に107人、懇親会に171人（うち、子供10人）が参加した。

研修会のテーマは「亀田ファミリークリニック館山これまでの10年、これからの10年」とした。各部署の理解を深め、そこから「KFCTの強み」を再確認することを目的に、各部署に抱いているイメージを集め、次に部署紹介の動画を供覧し、最後に今後の他職種連携として「明日からできること」を発表した。

全12班から出された、明日からできること、の中には、「外来患者に対するホームエバリュエーション」、「まずは職員が歯科受診」、「看護外来で内服指導」、「送迎バスの運用」など、様々な新しいアイデアが出された。次年度、別の委員会で実現に向けて動くアイデアとして、「地域のヘルスリテラシーをあげる取り組み」を広報委員会に、「元気な高齢者を目指したスタンプラリー」を地域活動委員会に、他職種連携の研修会を継続して行うことは催事委員会に託した。

・記念誌発行

祝宴当日には、10年間の軌跡として、岡田院長が作成した10周年年表、年度別のべ患者数・当期純利益（H18～27）を配布した。

・地域への還元

医師の修了生のうち10周年祝宴に参加された方々から、地域の患者さん向けのメッセージをもらった。本人たちの写真とともに、院内掲示を行なった。

・10周年記念品の選定

現職者の結束力を高めるため、10周年の記念品を作成した。各自に、ポロシャツ、てぬぐい、缶バッジを配布した。それぞれに記載したKFCTのロゴは、院内で公募し、職員の投票により決定した。

文責：岡田唯男／佐藤直人

学術関係

1) 原著論文 (Original Articles, Refereed Articles, Systematic Reviews)

2) 出版 (分担執筆、翻訳も含む)

1. 鵜飼万実子、岡田唯男、「第1章 どうしてリハが必要なんですか？5 退院後にも欠かせない生活期リハ、地域の暮らしを支える地域リハ」その患者さん、リハ必要ですよ 2016.6.25 羊土社
2. 森川博久、岡田唯男、「第1章 どうしてリハが必要なんですか？6 自動車運転再開・職場復帰に役立つリハ」その患者さん、リハ必要ですよ 2016.6.25 羊土社
3. 濱井彩乃、「第4章 その疾患、運動必要ですよ 2 変形性膝関節症(人工関節置換術後も含む)」その患者さん、リハ必要ですよ 2016.6.25 羊土社
4. 濱井彩乃、「第4章 その疾患、運動必要ですよ 14 糖尿病」その患者さん、リハ必要ですよ 2016.6.25 羊土社
5. 岡田唯男、「第5章 もっとリハを学習したい人へ 1 総合診療医/家庭医療(ジェネラリズム)とリハの親和性」その患者さん、リハ必要ですよ 2016.6.25 羊土社
6. 濱井彩乃、翻訳「Section 3 感染症ごとのまとめ pp732-737」最新感染症ガイド R-Book2015 2016.7.1 日本小児医事出版社
7. 岡田唯男、「1 総合診療専門研修がめざすもの>総合診療専門医のコアコンピテンシー>連携重視のマネジメント」総合診療専門研修の手引き一何をどう教え学ぶか 工夫と事例 (総合診療専

門医シリーズ 4) 2016.7.5 中山書店

- 菅長麗依. 「3 さまざまなプログラムでの学び方の実例>圧倒的臨床力と診療領域の広さ、そして仲間の存在—亀田家庭医・総合診療医プログラム」総合診療専門研修の手引き—何をどう教え学ぶか 工夫と実例 (総合診療専門医シリーズ 4) 2016.7.5 中山書店
- 吉澤瑛子. 「Column 産婦人科研修の実際」総合診療専門研修の手引き—何をどう教え学ぶか 工夫と実例 (総合診療専門医シリーズ 4) 2016.7.5 中山書店
- 鶴飼万実子. 岡田唯男. 「第4章 現場で役立つ! 診療科別(障害別)リハビリテーション 8 誤嚥性肺炎」G ノート増刊 Vol.4 No.2 これが総合診療流! 患者中心のリハビリテーション 2017.3.1 羊土社

3) 原著論文以外 (総説, Review, Thesis、依頼論文, コラム, 手紙, 報告など)

- 上松東宏. 「バターコーヒー・ダイエットの誤算」安房医師会ニュース VOL53 NO.1 2017
- 山下洋充. 濱井彩乃. 「総合診療医による case 11 妊娠計画のある若い女性の頭痛」治療 2016年7月 vol.98 No.7 p1087-1091 南山堂
- 濱井彩乃. 「“病院×家庭医療”と意思決定支援」治療 2016年10月 vol.98 No.10 p1570-1575 南山堂
- 鶴飼万実子. 「“病院×家庭医療”とリハビリテーション」治療 2016年10月 Vol.98 No.10 p1586-1592 南山堂
- 濱井彩乃. 「アンチ・ドーピング委員会コラム⑦」剣窓 2016年11月 p32 全日本剣道連盟
- 水谷佳敬. 「更年期障害の治療薬～プライマリ・ケア医にもホルモン補充療法はできる?～」G ノート 2017年2月 vol.4 No.1 p136-145 羊土社
- 水谷佳敬. 「プライマリ・ケア医のための「更年期障害」総論」治療 2017年3月 Vol.99 No.3 p365-370 南山堂
- 水谷佳敬. 「プライマリ・ケア医のための「更年期障害」治療編」治療 2017年3月 Vol.99 No.3 p372-378 南山堂
- 久保田希. 「妊娠中・授乳中の投薬」治療 2017年3月 Vol.99 No.3 p380-385 南山堂

4) 学会、研究会発表

- 岩間秀幸. 口演 2 小児・性差医療 0-011 「もし家庭医が主夫になったら」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
- 濱井彩乃. ポスター 4 総合診療専門医① P-022 「大学病院総合内科における家庭医療専門研修プログラム～プログラム創成期の課題と活動～」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
- 吉澤瑛子. ポスター 28 在宅医療⑤ P-162 「グループ診療の訪問診療における、腎性貧血に対する赤血球造血刺激因子製剤の適正化の取り組み」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
- 鶴飼万実子. 永久保珠江(R). ポスター 43 リハビリテーション① P-256 「家庭医診療所における自動車運転適性評価・支援プログラム」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
- 上松東宏. ポスター 41 診断と検査⑦ P-240 「プライマリ・ケア医による過去画像の利用法: 偶発所見を診療に活かす」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月12日

6. 河南真吾. ポスター 66 多職種連携① P-393「実家サポートのない産後うつの女性に対し、地域リソースを活用し支援した症例」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月12日
7. 坂井雄貴. ポスター 「The Current Status and Challenges of Healthcare for Foreigners in Japan」RCGP Annual Conference Harrogate, UK 2016年10月7日
8. 氏川智皓. 口演 OP386「EXPLORATORY RESEARCH ON THE FACTORS ASSOCIATED WITH THE JAPANESE FAMILY PHYSICIAN'S JOB SATISFACTION」21st WONCA World Conference of Family Doctors Rio de Janeiro, Brazil 2016年11月3日
9. 濱井彩乃. 一般演題 (ポスター) 2-P26-3「(改題) トライアスロン大会参加者の特徴と、事故予防対策」第27回日本臨床スポーツ医学会 学術集会 千葉 2016年11月6日
10. 鶴飼万実子. 永久保珠江(R). ポスター「プライマリケア医診療所における自動車運転適性評価・支援プログラム」第1回自動車運転に関する合同研究会 北九州国際会議場 2017年1月21日
11. 張耀明. 口演 第4分科会 災害15「熊本地震発災後の医療活動」平成28年度(第55回)千葉県公衆衛生学会 千葉 2017年3月2日

5) 招待講演, ワークショップ, 講師など学術関係

1. 岩間秀幸. シンポジウム 「総合診療医」が生き残るために～キーは働き方改革、時間制約のある人材の活用～「家庭医×主夫＝可能性は∞ (無限大)」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
2. 岡田唯男. WS「主治医/かかりつけ医の定義について考えよう(研究における定義)」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
3. 菅長麗依. WS「総合診療医のための渡航医学」Practice course Ver.1: 明日から使えるトラベルワクチン」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
4. 岡田唯男. WS「患者経験にもとづくプライマリ・ケア質改善～JPCATを使ってみよう～」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月12日
5. 水谷佳敬. 吉澤瑛子. 田島明野. WS「総ざらい! 女性診療・プライマリケア編」第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月12日
6. 水谷佳敬. 講義「母性看護」城西国際大学 2016年6月29日
7. 上松東宏. 講演「アメリカでの家庭医を経験して」名古屋市昭和区医療連携講演会 2016年6月30日
8. 濱井彩乃. WS「あなたは何系ジェネラリスト?～専門研修からあなたのジェネラリスト像を考える～」第28回家庭医療学夏期セミナー 湯河原 2016年8月6日
9. 久保田希. 上松東宏. 鶴飼万実子. 氏川智皓. 岡田悠. 岡田唯男. 坂井雄貴. 年森慎一. 宮本侑達. 吉澤瑛子. 金久保祐介. WS「亀田流! 家庭医外来研修 ～初期研修医でも家庭医になれる!?～」第28回家庭医療学夏期セミナー 湯河原 2016年8月7日
10. 岡田唯男. 講義「総合診療入門」日本医科大学 2016年9月7日
11. 上松東宏. 講義「過去画像を診療に活かす」プライマリケア レクチャーシリーズ 2016年9月15日
12. 水谷佳敬. 教育講演「おさえおきたい女性診療の基本と救急」第13回日本病院総合診療医学会学術総会 品川 2016年9月17日

13. 河南真吾, 年森慎一, 講師「予防医学とヘルスプロモーション」第1回四国プライマリ・ケア交流会 愛媛大学 2016年10月1日
14. 岡田唯男, 講師「ここが聞きたい! 岡田唯男の生涯学習術ー理論と実践ー」日本プライマリ・ケア連合学会 専門医部会フォーラム2016 秋葉原 2016年10月22日
15. 濱井彩乃, 講演「家庭医ならではのスポーツ医学」第27回三重・家庭医療学セミナー 三重大学 2016年10月27日
16. 菅長麗依, WS「総合診療医のための渡航医学」Practice course Ver.1: 明日から使えるトラブルワクチン」第13回日本プライマリケア連合学会 秋季生涯教育セミナー 大阪 2016年11月6日
17. 濱井彩乃, WS「ポートフォリオのトリセツ ~作成から指導まで~」第5回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会 群馬 2016年11月27日
18. 宮本侑達, 講演・評価委員「学部連携地域医療学習から学んだこと」文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(平成26-30年度)事業中間報告・公開シンポジウム-在宅チーム医療教育カリキュラムの構築と実践- 昭和大学 2017年1月21日
19. 山下洋充, 上松東宏, 水谷佳敬, 氏川智皓, 玉野井徹彦, 岡田悠, 久保田希, 年森慎一, 坂井雄貴, 吉澤瑛子, WS「そうだ メンズ・ヘルス診よう ~メンズ・ヘルス=泌尿器科学なのか?」第12回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー 東京 2017年2月12日
20. 鶴飼万実子 WS「リハビリテーション科医とプライマリ・ケア医コラボ企画 リハ入門」第12回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー 東京 2017年2月12日
21. 河南真吾, 講演「関東出身の医学生が徳島の地域医療に進んだ一例」第7回中四国地域医療フォーラム 徳島大学 2017年2月24日~25日
22. 岡田唯男, 講演「ながさき県北地域医療教育コンソーシアム」 長崎大学 2017年3月4日~5日

6)その他

*受賞、助成金獲得など

1. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 Teaching Pearl コンテスト 優勝 張耀明
2. 亀田総合病院 2016年度家庭医診療科内BEST指導医 張耀明

*委嘱事業

1. 岡田唯男, 嘱託講師 島根大学医学部 総合医療学 2016年度
2. 岡田唯男, 客員教授 聖マリアンナ医科大学 地域医療学 2016年度
3. 岡田唯男, 非常勤講師 千葉大学医学部 医療経済情報学 2016年度
4. 岡田唯男, 非常勤講師 秋田大学医学部 臨床検査と診断学 2016年度
5. 岡田唯男, 吉澤瑛子, 岩間秀幸, 上松東宏, 張耀明, 鈴木理永, 河南真吾, 田島明野, 非常勤講師 安房医療福祉専門学校 病態学Ⅷ(小児) 2016年度
6. 菅長麗依, 非常勤講師 岡山大学医学部 内科学講座 臨床推論 2016年度
7. 河南真吾, 非常勤講師 徳島大学医学部 地域医療学 2016年度
8. 永久保珠絵(R), 荒牧奈緒美(R), 特別非常勤講師 安房特別支援学校 2016年度
9. 濱井彩乃, 委員 全日本剣道連盟 アンチ・ドーピング委員会 2015・2016年度
10. 岡田唯男, 学校医 館山市立北条小学校 2016年度
11. 岡田唯男, 学校医 千葉県立館山総合高等学校 2016年度

*座長，大会長，司会，パネリストなど

1. 岡田唯男. 企画責任者「主治医／かかりつけ医の定義について考えよう(研究における定義)(知的活性化プロジェクトチーム企画)」WS 第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月11日
2. 水谷佳敬. 企画責任者「総ざらい！女性診療・プライマリケア編」WS 第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月12日
3. 上松東宏. 座長「42 診断と検査⑧」ポスター 第7回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2016年6月12日
4. 吉澤瑛子. 座長「パネルディスカッション テーマ「医師のライフイベントを考える」」千葉県医師会 第2回 男女共同参画懇談会「私たちの働き方、考えてみませんか？～活躍できる場と働きやすい環境を目指して～」 千葉 2017年2月18日

*面接官，試験官など（依頼）

1.

*取材・メディアなど

1.

*一般向け講演、指導、健康教室（Sはスポーツ医としての依頼、Nは看護師、Rはりハビリ、その他は医師）

1. 千葉県安房特別支援学校 永久保珠絵(R)、荒牧奈緒美(R)…自立活動の指導助言 各、年5回
2. 千葉県安房特別支援学校 指導医 医療的ケアの指導 年6回
3. 河南真吾. 坂井雄貴. 久保田希. 張耀明. 氏川智皓. 玉野井徹彦. 山下洋充. 宮本侑達. 濱井彩乃. 講師「安房地域の終末期医療を考える研修会」安房医療福祉専門学校 2016年6月5日
4. 吉澤瑛子. 高橋良太. 鵜飼万実子. 常石大輝. 健康教室「性感染症予防について」南房総市立千倉中学校 3年生生徒 2016年6月22日
5. 岩間秀幸. 田島明野. 川上理華. 三戸勉. 健康教室「エイズ・性感染症等、思春期の性について」南房総市立富山中学校 2、3年生生徒 2016年7月1日
6. 永久保珠絵(R). 講師 平成28年度管内市町幼稚園・保育所等特別支援教育研究会「幼稚園・保育所等における発達に気になる子供への支援と関係者間の連携」君津教育会館 2016年7月1日
7. 河南真吾. 高橋亮太. 岡田悠. 伊豆倉遥. 健康教室「禁煙について」海上技術学校 2016年7月20日
8. 張耀明. 氏川智皓. 三戸勉. 講演「高血圧症の理解と予防」館山市コミュニティセンター 館山市保健推進員 2016年9月15日
9. 藤田誠(R). 南房総市特別支援教育コーディネーター会議「発達が気になる子どもの支援と医療関係との連携」南房総市丸山公民館 2016年9月21日
10. 上松東宏. 玉野井徹彦. 年森慎一. 高岡沙知. 健康教室「親子薬物乱用防止教室」南房総市立富浦小学校 6年生生徒・保護者 2016年9月27日
11. 濱井彩乃. 河南真吾. 宮本侑達. 健康教室「感染症について」渋谷教育学園幕張高等学校 1年生生徒 2016年10月20日～21日
12. 坂井雄貴. 講演 かしわ元気塾「冬がくる前に…♪ ～寒さに負けないで～」 柏地域医療連携セ

ンター 2016年10月22日

13. 浅井史織(R). 講演 平成28年度 生活期リハビリテーション合同研修会「活動・参加へ繋げた事例報告」千葉県保健医療大学 幕張キャンパス 2016年11月5日
14. 田島明野. 山下洋充. 久保田希. 大沼雄輝. 健康教室「性感染症について」館山市立房南中学校 1年生生徒 2016年11月9日
15. 氏川智皓. 講師 平成28年度安房保険所第2回地域・職域連携推進部会「よい睡眠でこころもからだも健康に」安房健康福祉センター 地域・職域連携推進事業推進部会の委員 2016年11月21日
16. 河南真吾. 玉野井徹彦. 森本美登里. 健康教室「たばこの害を知ろう」神余小学校・豊房小学校5・6年生生徒 2016年12月2日
17. 吉澤瑛子. 氏川智皓. 加藤礼乃. 健康教室「性感染症について」館山市立第二中学校 2年生生徒 2016年12月16日
18. 上松東宏. 鶴飼万実子. 勝山陽太. 健康教室「喫煙防止」館山小学校 5、6年生生徒 2017年1月17日
19. 岩間秀幸. 勝山陽太. 年森慎一. 健康教室「喫煙防止」南房総市立富山中学校 1、2年生生徒 2017年1月27日
20. 鈴木理永. 高橋亮太. 大沼雄輝. 健康教室「薬物乱用防止教室」南房総市千倉小学校 6年生生徒 2017年1月30日
21. 岡田唯男. 鈴木早苗(N). 発表 予防接種に係る誤接種予防のための研修会「誤接種防止のための医療機関での取り組み(1)亀田ファミリークリニック館山」館山市コミュニティセンター 2017年1月31日
22. 山下洋充. 岡田悠. 加藤早里佳(N). 健康教室「喫煙・薬物乱用防止教室」館山市立第一中学校 2年生生徒 2017年2月16日
23. 吉澤瑛子. 田島明野. 年森慎一. 講師「妊産婦等の喫煙による影響と対策について」安房健康福祉センター 母子保健推進員 2017年2月28日
24. 上松東宏. 大沼雄輝. 健康教室「たばこの害について」南房総市立三芳小学校 5・6年生生徒 2017年3月7日

*スポーツイベント帯同 大会ドクター及びマッチドクター

1. 2016年6月26日 第7回館山わかしおトライアスロン大会 沖ノ島/海上自衛隊館山航空基地 特設会場 (濱井彩乃・田島明野・氏川智皓・山下洋充・玉野井徹彦・年森慎一・坂井雄貴・鈴木早苗(N)・小藤田吏絵(N)・山口和子(N)・富川志乃布(N)・大友可奈(N)・加藤早里佳(N))
2. 2016年7月25日 和光中学校 臨海学校 沖の島遠泳 (山下洋充)
3. 2016年9月22日 千倉ロードレース (上松東宏、氏川智皓、岡田悠、高岡沙知)
4. 2016年12月8日～11日 平成28年度 全日本剣道連盟 第4回女子強化訓練講習会/第1期第3回女子特別強化訓練講習会 東京 (濱井彩乃)
5. 2017年1月29日 第37回館山若潮マラソン 館山市営市民運動場 (鈴木理永、山下洋充)
6. 2017年2月9日～12日 平成28年度 全日本剣道連盟 第5回女子強化訓練講習会 福岡 (濱井彩乃)

*地域イベントへの参加(地域連携)

1. 岡田唯男. 吉澤瑛子. 田島明野. 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」地

域運営協議会 2016年12月1日

-----以上-----